

サポートツール実証データ

実証研究実施者	米田 順子
区分 1	運動と姿勢
区分 2	姿勢
領域	姿勢保持
困難	床に足が届かず、足をブラブラさせてしまう。 いすに座ると、体がぐにゃぐにゃになる。
サポートツール	チョー便利だい！
学年	3歳児
試用期間	4月～3月の1年間
使用場所	保育室
使用上の注意、条件	
使用状況 <授業の構成等>	<p>1、いすに座ると、床に足が届かない子ども:足置き台として使用する。</p> <p>2、いすに座ると、体がぐにゃぐにゃになる子ども:背中に置くと腰が安定する。</p> <p>3、いすに座ると、足をいすにあげやすい子ども:台を横に挟むと体が安定してすわりやすくなる。</p> <p>4、いすに座っても、テーブルがたかすぎる子ども:いすにおいて座布団代わりにする。</p> <p>5、ままごとのコーナーに使う:たくさん置いておくと、コーナーを囲うようにならべて家をつくる。たくさん床にならべて、ベッドにして病院ごっこなどを楽しむ。</p> <p>6、一人ひとつずつもって、かくれんぼをする。箱を使っての体操遊びなどをクラス全員で楽しむ。</p> <p>7、たくさん箱に入れて、押ししたり、持ち運ぶゲームをしたりして楽しむ。</p>

チョー便利だい！

作り方

① 月刊・週刊のまんが本1冊を用いる



② 布かまテープを巻く




③ 完成!



使い方いろいろ



	<ul style="list-style-type: none"> ・柄のテープ(布ガムテープ)はDIY店にて購入 ・中身は、漫画の月刊誌や週刊誌で同じ大きさのものを使用(サイズはA4くらい)
<子どもの様子>	<p>部屋においておくと、いろいろな使い方を子どもが工夫して楽しむようになる。 重たいものを持つことがなかなかないのだが、重ねて持つなどのことで、手の使い方も上手になってくる。 困いとして使いたいときには「もっと作って!」という子どもが多かった。</p>
留意事項	
評価	<p>手軽に作ることが出来るので、家庭にも遊びを提供しやすい。 また、家庭でもいすにおいて使うことができるので、生活面での支援にもつなぐことができる。</p>
サポートツールの改善点	
サポート・ツールの概要	

サポートツール実証データ

実証研究実施者	米田 順子
区分 1	日常生活活動
区分 2	遊び
領域	全般
困難	大きな物を持つことが苦手
サポートツール	チョー便利だい！
学年	3歳児
試用期間	4月～3月の1年間
使用場所	保育室
使用上の注意、条件	

使用状況
<授業の構成等>

- 1、いすに座ると、床に足が届かない子ども: 足置き台として使用する。
- 2、いすに座ると、体がぐにゃぐにゃする子ども: 背中に置くと腰が安定する。
- 3、いすに座ると、足をいすにあげやすい子ども: 台を横に挟むと体が安定してすわりやすくなる。
- 4、いすに座っても、テーブルがたかすぎる子ども: いすにおいて座布団代わりにする。
- 5、ままごとのコーナーに使う: たくさん置いておくと、コーナーを囲うようにならべて家をつくる。たくさん床にならべて、ベッドにして病院ごっこなどを楽しむ。
- 6、一人ひとつずつもって、かくれんぼをする。箱を使っての体操遊びなどをクラス全員で楽しむ。
- 7、たくさん箱に入れて、押したり、持ち運ぶゲームをしたりして楽しむ。

チョー便利だい！

作り方

① 月刊・週刊のまんが1冊を用いる



② 布ガムテープを巻く




③ 完成!



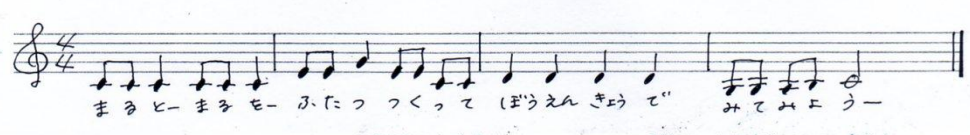



使い方いろいろ




・柄のテープ(布ガムテープ)はDIY店にて購入

	・中身は、漫画の月刊誌や週刊誌で同じ大きさのものを使用(サイズは A4くらい)
<子どもの様子>	部屋においておくと、いろいろな使い方を子どもが工夫して楽しむようになる。 重たいものを持つことがなかなかないのだが、重ねて持つなどのことで、手の使い方も上手になってくる。 困いとして使いたいときには「もっと作って！」という子どもが多かった。
留意事項	
評価	手軽に作ることが出来るので、家庭にも遊びを提供しやすい。 また、家庭でもいすにおいて使うことができるので、生活面での支援にもつなぐことができる。
サポートツールの改善点	
サポート・ツールの概要	

サポートツール実証データ

実証研究実施者	米田 順子
区分 1	日常生活活動
区分 2	遊び
領域	ことばの習得
困難	ことばが少ない
サポートツール	望遠鏡でみてみよう
学年	2～3歳児
試用期間	2009年4月～2010年8月 (1年4カ月)
使用場所	保育室
使用上の注意、条件	
使用状況 <授業の構成等>	<p>準備:厚紙を A5 サイズほどの大きさにたくさん切っておく。 1枚の厚紙に、黒画用紙を貼り、穴を二つ開け表紙を作る。 その他の厚紙には、雑誌や広告紙などから、子どもに教えた物を選択して、数枚貼付けておく</p> <p>遊ぶ:「丸と丸を二つ作って望遠鏡でみてみよう♪」と歌いながら、黒い表紙と数枚の絵を貼付けた厚紙を重ねて持つ。 穴の中から見えている部分を、子どもたちが見て、絵を当てる。</p> <p>絵は、動物、車など、子どもたちの興味のあるものも良いが、身の回りのトイレや手洗い場、ロッカーなど、保育現場で子どもが使用するときを知っておくと良い場所などの名前を教えていくときにも利用する。 ゲーム感覚で、場所の名前と、実際の場所をリンク指せていくように、遊びの中では意識していく。</p> <p>年齢が上がり、絵カードを使用するときには、絵カードを望遠鏡に隠して、絵カードの示すことの意味を教えていくこともできる。</p> <p style="text-align: center;">PAGE _____ (ぼ"うえんき"ょうの うた)</p>  <p style="text-align: center;">①  まるとー</p> <p style="text-align: center;">②  まるもー ふたつ つくって (手を動かす)</p> <p style="text-align: center;">③  (ぼ"うえんき"ょうで) みてみようー</p>

<p><子どもの様子></p>	<p>歌ではじまるので、楽しみながら参加している。 初めて参加する幼児がわからないときに、答えられると得意そうにする乳児のようすがかわいらしい。 内容を難しくすると、幼児も興味を持って参加するようになる。 身の回りにあるけれど名前をよく知らない`おたま`や`洗濯洗剤`などは「料理するやつ」「洗濯に入れるやつ」と答えるので、物の名前を覚えていくと、嬉しそうにしていた。</p>
<p>留意事項</p>	<p>穴の大きさを子どもの状況に合わせて工夫してみる。</p>
<p>評価</p>	<p>いつの間にか、家にあるものの名前を覚えていると思ったら、こんな風に遊んでいたんだということがわかった(保護者)</p>
<p>サポートツールの改善点</p>	
<p>サポート・ツールの概要</p>	

サポートツール実証データ


実証研究実施者	米田 順子
区分 1	日常生活活動
区分 2	遊び
領域	手遊び
困難	コマなどが回せない
サポートツール	牛乳パックでコマまわし
学年	2～5歳児
試用期間	12月～9月
使用場所	保育室
使用上の注意、条件	
使用状況 ＜授業の構成等＞	<p>準備する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、牛乳パックを一人に一個用意する。 2、四隅の角からはさみを入れて、牛乳パックの底が中心になるように切り開く。 3、切り開いた牛乳パックの側面が縦半分になるように切り込みを入れる。 4、切り込みを入れた側面の長さを組み合わせたときに子どもが持ちやすい大きさになるように調節して切り落とす。 5、見本として、マジックでカラフルに塗ったものを用意しておく。 6、説明の時に使うので折り紙を全色用意しておく。また、子どもが使うマジックも用意しておく。 <p>子どもに見本のコマをまわしてみせる</p> <p>年齢に合わせて、模様を描くことや色の組み合わせによって、コマを回したときに、色の変化が見られることを、見本を通して感じたり、考えたり、工夫しようとしたりができるように、具体的な言葉で「青と赤で塗ってまわしたら紫になったね」などの声掛けをする。</p> <p>声掛けが視覚的にわかるように、折り紙を用意しておき、色をならべていく。</p> <p>製作を楽しむ</p> <p>年齢や手先の器用さにあわせて、牛乳パックを押さえてあげたり、塗り込みをしやすいように太いマジックを進めたりする。</p> <p>色の工夫で迷う子どもには、提案や折り紙を見に行くなどして、考えることも促していく。</p> <p>こまを組み合わせる</p> <p>乳幼児ではホッチキスなど使いにくいので、保育士が仕上げる。ホッチキス部分は針でけがすることを防ぐためにもセロハンテープを上から貼っておく。</p> <p>牛乳パックは、1リットルのものより、350ミリリットルなどの小さいパックの方が扱いやすい</p>
＜子どもの様子＞	<ul style="list-style-type: none"> ・水道の蛇口の開閉ができなかったが、こまで遊ぶことを続けるうちに手首がまわせるようになり、開閉できるようになった(2歳児) ・自分で作ったこまなので、大切にしようとする気持ちもあり、まわしたときにきれいな色がでないと、もう一度色を塗り込み直すすがたがあった(4歳児) ・色の工夫や、模様の工夫によって、コマを回したときの色が変わることを発見する子どももいる(5歳児)
留意事項	使い方により、伸ばす能力が異なる(手のまわし方、混色)

評価

- ・お正月などに、幼児が本物のコマ回しをはじめると、2歳児は模倣をはじめますが、本物ではなかなかひもを巻いたりまわしたりすることが難しい。そこで、この牛乳パックのコマを作ることによって、コマ回しが出来るという満足感も得られる。
- ・乳児は手が小さいので、牛乳パックの底面が小さいものを用意できると、まわすときに手が十分に届き、まわしやすくなる。幼児が1リットルのものを使用すると、まわす難易度が上がり、挑戦しようとする気持ちを引き出すことや、本物のコマをうまくまわせない子どもも満足できるなどの効果がみられた。
- ・絵画製作のときにも、絵の具を混ぜて色を作ることに応用する子どもが増えた。

サポートツールの改善点

サポート・ツールの概要



牛乳パックでコマまわし

作り方

- ① 牛乳パックを切る
- ② 切りひらく
- ③ 半分に切り込みを入れる
- ④ 角を切りおとして丸身をつける
- ⑤ 交点に重ねてホッチキスでとめる

この部分に色を塗ることで、混色も学ぶことができる

サポートツール実証データ

実証研究実施者	山田 充
区分 1	国語
区分 2	その他
領域	四字熟語の習得
困難	四字熟語の習得が難しい
サポートツール	四字熟語合わせ
学年	小学5年
試用期間	2011年5月～7月
使用場所	通級指導教室
使用上の注意、条件	
使用状況 ＜授業の構成等＞	<p>通級指導教室での1時間の指導が終わった後に一緒に勉強したメンバーと一緒に遊ぶ。神経衰弱に似ているが、間違ってもカードはオープンにしたままで、次にめくったカードと合うものがあれば、オープンされているものと合わせて自分の物と出来る。</p> <p>四字熟語の中の前半2文字と後半2文字のカードに分かれており、2枚めくることによってちょうど合う四字熟語になったらよい。</p> <p>四字熟語として正解かどうか、回答一覧がついているので、その中で、合うかどうかを調べる。</p> <p>回答一覧には意味も書いているので、四字熟語の意味と同時に押さえることが出来る。</p>
＜子どもの様子＞	<p>子どもたちは、最初は四字熟語を知らないので嫌がっていたが、始めると知らなくても、たくさん、とれることがわかり、俄然意欲的に枚数を取ろうと努力し始めた。</p> <p>また、支援者が子どもの取った四字熟語の意味を必ず、言うようにしたため、四字熟語の意味理解や興味も出てきたようで、その後もしたがるが多かった。</p>
留意事項	
評価	<p>すでにオープンされているカードを合うものをめくれば、自分の物と出来るので、全然四字熟語を知らなくても、ゲームに参加出来、対等に自分の物と出来るので、どの子どもも意欲的参加することが出来、喜んで毎回使用と言っていた。</p>
サポート・ツールの改善点	

サポート・ツールの概要



サポートツール実証データ

実証研究実施者	山田 充
区分 1	国語
区分 2	その他
領域	四字熟語の習得
困難	四字熟語の習得が難しい
サポートツール	続・四字熟語合わせ
学年	小学5年
試用期間	2011年5月～7月
使用場所	通級指導教室
使用上の注意、条件	
使用状況 ＜授業の構成等＞	<p>通級指導教室での1時間の指導が終わった後に一緒に勉強したメンバーと一緒に遊ぶ。</p> <p>神経衰弱に似ているが、間違ってもカードはオープンにしたままで、次にめくったカードと合うものがあれば、オープンされているものと合わせて自分の物と出来る。</p> <p>四字熟語の中の前半2文字と後半2文字のカードに分かれており、2枚めくすることでちょうど合う四字熟語になったらよい。</p> <p>四字熟語として正解かどうか、回答一覧がついているので、その中で、合うかどうかを調べる。</p> <p>回答一覧には意味も書いているので、四字熟語の意味と同時に押さえることが出来る。</p>
＜子どもの様子＞	<p>子どもたちは、最初は四字熟語を知らないので嫌がっていたが、始めると知らなくても、たくさん、とれることがわかり、俄然意欲的に枚数を取ろうと努力し始めた。</p> <p>また、支援者が子どもの取った四字熟語の意味を必ず、言うようにしたため、四字熟語の意味理解や興味も出てきたようで、その後もしたがることが多かった。</p>
留意事項	
評価	<p>すでにオープンされいているカードを合うものをめくれば、自分の物と出来るので、全然四字熟語を知らなくても、ゲームに参加出来、対等に自分の物と出来るので、どの子どもも意欲的参加することが出来、喜んで毎回使用と言っていた。</p>
サポート・ツールの改善点	

サポート・ツールの概要



サポートツール実証データ

実証研究実施者	山田 充
区分 1	対人関係・社会性
区分 2	情緒
領域	感情の統制
困難	たくさんの人の中では、落ち着かない。
サポートツール	私の部屋
学年	小学5年
試用期間	2011年9月～10月
使用場所	通級指導教室
使用上の注意、条件	
使用状況 ＜授業の構成等＞	通級指導教室に設置 学習が終わった後に、中に入って静かに過ごす 10人ぐらいの子どもが通級してくる時間帯に騒音が苦手で、他の子どもたちがたくさんいる場所にいるのがつらい子どもに対して、学習修了後に中に入って過ごしていいと伝える。 学習しているときは、他の子どもも学習しているので、それ程騒がしくなくてよいが終わった後に、他の子ども達は賑やかになる。 本児に、好きな本を持って中で読んでいいよという指示をだして、すごさせた。
＜子どもの様子＞	本児は、パターで行動する特徴もあり、この私の部屋で過ごしてよいというそれ以降毎回、指導修了がこの部屋で落ち着いて過ごすことが出来ている。
留意事項	他の子どもにも人気があり、入りたい子どもが多いため、取り合いになることもある。
評価	まわりを気にせず、落ち着いてお母さんが来るのを待てるのがよいと言っている。
サポート・ツールの改善点	
サポート・ツールの概要	

サポートツール実証データ

実証研究実施者	今村 佐智子
区分 1	対人関係・社会性
区分 2	社会性
領域	スキル
困難	友達とのやりとりより自分のしたいことを一人ですることが多い。
サポートツール	私の部屋
学年	4年
試用期間	2011年9月～12月
使用場所	通級指導教室
使用上の注意、条件	
使用状況 ＜授業の構成等＞	他校通級で放課後やってくる児童は、課題終了後、保護者が迎えに来るまで自由に遊んでいる。 自由に遊んでいい物はたくさんあり、「私の部屋」もその一つである。「私の部屋」はドアのあるものとないものの2つあるが、場所が狭いため、普段はたたんで立てかけてある。遊びがおわると、自分でたたんで片付ける。
＜子どもの様子＞	自由遊びの時間になると、一目散に走って行き、「私の部屋」を出してきて、組み立てている。 当初は一人で、ブロックやお気に入りの物を持って入って自分で楽しんでしたが、「おうちで遊ぼう！」と徐々に友だちを誘うようになった。 「私の部屋」を二つつなげて、中に一人ずつ入って遊んでいる。ブロックを食品に見立てておままごとをし、友だちとのやりとりを楽しんでいる。
留意事項	たたんで置いているため、接着部分は接着していない。 そのため、「段ボール」イメージが強く、中には喜んで、キャタピラーのようにして遊び出す子がいた。
評価	家としての形があるため、遊びにスムーズに入っていけ、イメージが広がる。一人で遊ぶことが多かった児童が自分から誘って遊び、やりとりのあるごっこ遊びができた。
サポート・ツールの改善点	家へので出入りも楽しいので、よく使いドアの部分がもろくなってきている。
サポート・ツールの概要	

サポートツール実証データ

実証研究実施者	米田 順子
区分 1	日常生活活動
区分 2	遊び
領域	運動遊び
困難	自分のからだの大きさがわかりにくい。肩を回す動きが難しい。
サポートツール	ホースフープ
学年	3、4、5歳児
試用期間	4月～10月
使用場所	保育室および園庭
使用上の注意、条件	首に入る大きさなので、首にかけた状態で引っ張らないように注意が必要
使用状況 ＜授業の構成等＞	<p>1、ホースフープを作る:3～5歳児に使用するときには、体がぎりぎりとおるくらいの円になるように作る。ホースのつなぎ目には、牛乳パックをきったものなどをかませてから、カラービニルテープで巻くと丈夫で使いやすくなる。</p> <p>2、ホースフープを使って遊ぶ:フープを転がす、体をくぐらせる、腕に引っ掛けてまわすなど、様々な遊びが出来る。</p> <p>3、プールで使用する:プールに浮かせて、輪の中に飛び込む、水中で輪ぐりをする、たくさん輪をならべてフープとりをする、輪を橋のようにならべて足をいれながらわたっていくなどの遊びができる。</p> <p>4、友達と一緒に遊ぶ:フープをふたりでもち「お船はぎっちらこ～」などの遊びをする。</p>
＜子どもの様子＞	<p>3歳児:はじめは、床においたフープを両足とびで出入りすることも難しいが、しだいに扱いにもなれ、腕に引っ掛けてまわそうとすることに挑戦し始める。少し難しいということが楽しいということを感じながら遊びに取り組むようになった。</p> <p>4歳児:腕に引っ掛けてまわすことにチャレンジすることも多い。力加減ができるようになると両手でやってみようとする。「できた！みて～」と積極的にみせにくる。</p> <p>5歳児:友達と工夫して遊ぶようになる。たくさんフープを並べてゲームをしたり、足首にひっかけて足を床にすりあししながら、かけっこをしたりと遊びの工夫をして楽しんでいく。室内でも使えるので、食後などに「つかってもいい??」と、積極的に使用の許可を求めてくる。</p>
留意事項	
評価	<p>安価でたくさんつくることができるので、一人ずつに使用させることができる。踏んだり、あたったりしても、プラスチック製のものとは違い、けがもしにくいのでつかいやすい。(保育士)</p> <p>簡単に家庭でも作ることができるので、支援の必要な子どもには、家庭でも遊んでもらえるように進めやすい。</p>
サポートツールの改善点	

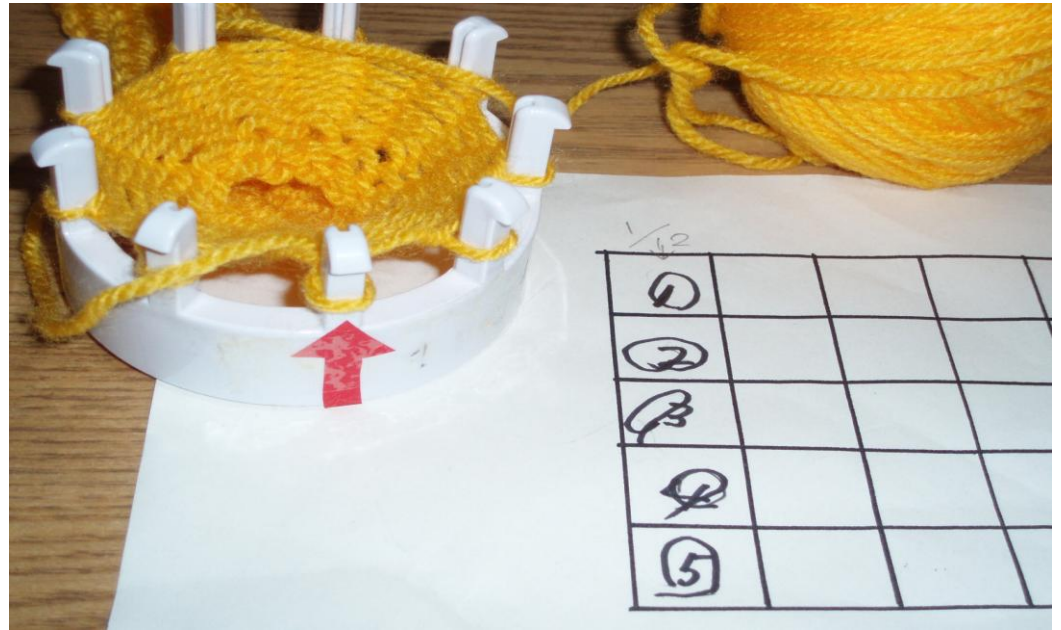
サポート・ツールの概要



サポートツール実証データ

実証研究実施者	米田 順子
区分 1	日常生活活動
区分 2	遊び
領域	手遊び
困難	手先が不器用。作業にすぐに飽きてしまう。
サポートツール	リリアン編み(矢印付き)
学年	5歳児
試用期間	12月～2月
使用場所	保育室
使用上の注意、条件	
使用状況 ＜授業の構成等＞	<p>1 準備をする 編み始めがわかりやすいように、矢印をカラーテープで貼る。 編んでいく方向がわかりにくい子どもには、カラーテープの矢印を横向きにつける。 編み進んでいく量が、目にみてわかる方が意欲の持てる子どもの場合は、表を作っておき、編み進んだ段数だけ丸印を記入していくようにする。</p> <p>2 編み終わりがわかるように、紙などで長さ比べができるものを作っておく。</p> <p>3 編みはじめから1周～2周ほど、一緒に編み、子どもが方法がわかってきたらそばで見守り、ほめながら、編み目をとばしたり、失敗ないようにサポートする。</p> <p>4 編み進める際に、子どもの状態にあわせて、準備1で用意した矢印などを貼りつけるなど、個別のサポートをする。</p> <p>5 編み上がったものを使って、動物のしっぽにして遊んだり、散歩に行く際に、皆でマフラーをして出かけたりして、完成を喜び合えるようにする。</p>
＜子どもの様子＞	<p>先の見通しと、矢印などの補助道具があることにより、根気のいる作業にも最後まで取り組み、全員が完成させることができた。</p> <p>編み進める方向の矢印をつけてもらった子どもは、「これあったら、明日もわかるなあ」と、安心して途中で終えることができていた。</p> <p>根気が続きにくい子どもは、表を使用することで、編み進んだ成果がわかりやすく、お迎えにきた母親に表をみせて、「きょう、これだけできたよ」とうれしそうにみせてほめてもらうことを励みにがんばることができていた。</p>
留意事項	
評価	<p>「こんなに、最後までできるとおもってなかったから、この子すごいです」(保護者)</p> <p>「矢印があったら、教える方も教えやすいです」(パート保育士)</p>
サポートツールの改善点	

サポート・ツールの概要



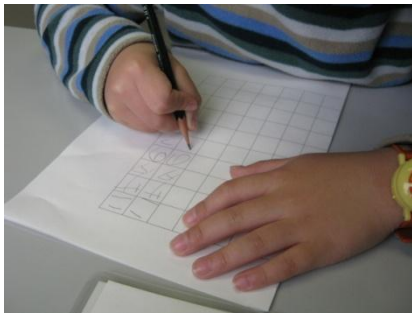
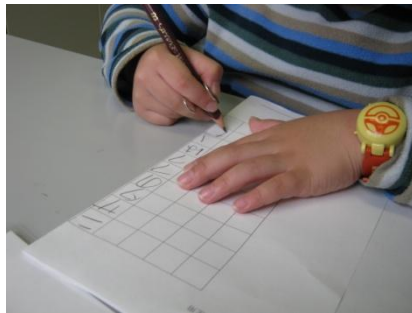
サポートツール実証データ

実証研究実施者	米田 順子
区分 1	算数
区分 2	全般
領域	全般
困難	算数全般に苦手意識が高い。
サポートツール	東大生が考えた魔法の算数ノートなつとQ～
学年	小学5年生
試用期間	2010. 8月～12月
使用場所	個別指導
使用上の注意、条件	
使用状況 ＜授業の構成等＞	<ol style="list-style-type: none"> 1 教材に書いてある、使い方を一緒に読み、確認する。 2 問題の3ステップ方式を理解できたら、一緒にステップ1から問題に取り組んでいく。 3 評価を記入する箇所があるので、きちんとその都度フィードバックしていく。 4 丁寧に読み進めながら、問題に取り組むと、スモールステップで解けるので、失敗感がつのりにくい。わからなくなったら、一つ前のステップに戻るよう促して、自信がもてるように声をかけていくように、心がける。 5 使い方が身に付いてきたら、解説を読みながらでも、一人で進められるようになり、途中に出てくる算数のみに知識に、興味をみせはじめる。 6 解説が継次的で、イラストも多く視覚的にもわかりやすい様子で、最後まで取り組むことができた。
＜子どもの様子＞	<p>初めて教材を手にしたときには、「なんかできそうな気がする」と言う。取り組み始めると、「結構、簡単。だってまねしてかいたらいいだけだし。」という。</p> <p>ステップがすすんでいっても、ヒントの解説がわかりやすいのか、自分ですすめていくことができるようになるのが、ほかの教材と比較すると早期にできるようになっていった。</p>
留意事項	
評価	<p>イラストが適当に入っていて、文章だけではわからないことも、わかりやすかったようだ。</p> <p>また、たくさんの解説をかいてあると、余計に混乱することが多かったけれど、ポイントと順を追って書いてあるので、わかりやすかった。</p>
サポートツールの改善点	

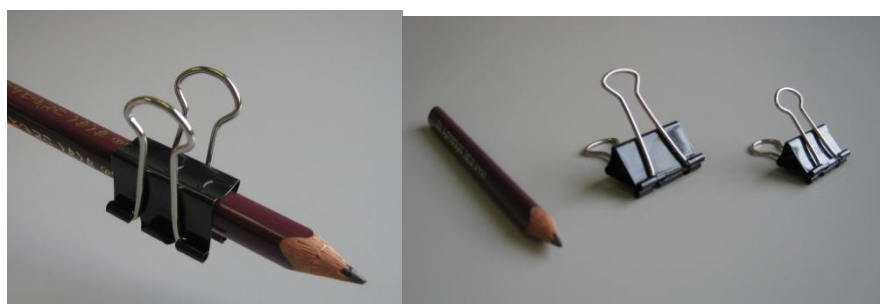
サポート・ツールの概要



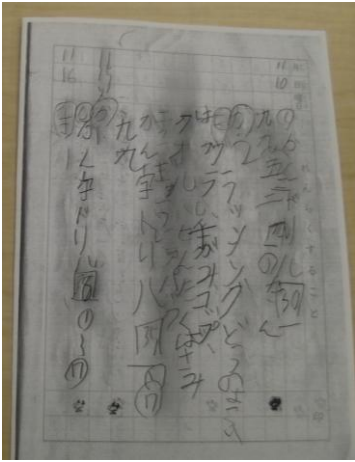
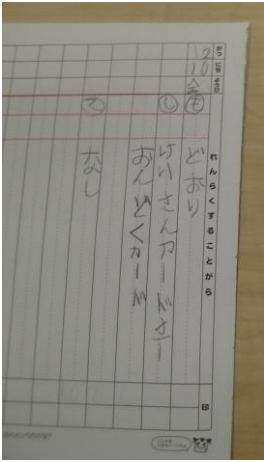
サポートツール実証データ

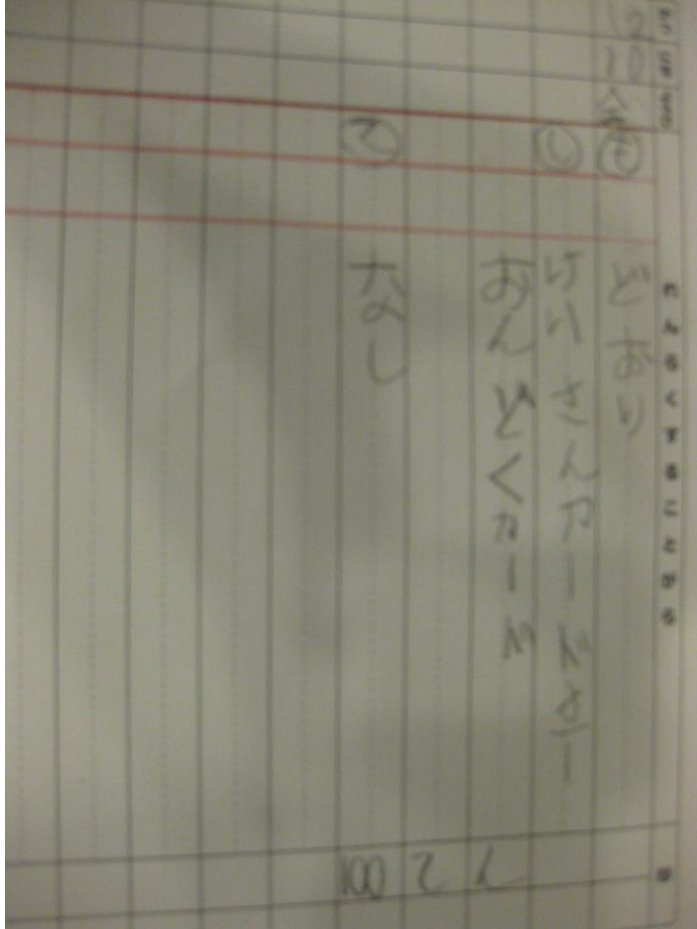
実証研究実施者	奥村 智人 (所属) 大阪医科大学 LD センター 三浦 朋子 (所属) パームこどもクリニック
区分 1	国語
区分 2	書く
領域	鉛筆の使い方など
困難	鉛筆の持ち方、握り方が悪い。鉛筆を持つ力が弱い。
サポートツール	バインダークリップ (ダブルクリップ)
学年	6 歳から中学 3 年生
試用期間	平成 23 年 4 月～12 月
使用場所	LD センター、学校 (通常学級・特別支援学級・特別支援学校)、自宅
使用上の注意、条件	鉛筆をバインダークリップではさみ、人差し指をクリップの中央に当てるように持つ (「使用状況」の写真参照)。使用する鉛筆はできれば三角鉛筆を使用する。
使用状況 <授業の構成等>	<p>「使用上の注意、条件」で記入したように持つことで、使用した全員が、正しい持ち方で鉛筆を保持することができた。軽い麻痺があり、握力が非常に弱い子どもでも、鉛筆の握りを保持することができ、運筆が可能であった。</p> <p>他のグリップでは最初は正しく持ててもだんだんグリップの形を無視して自分なりの持ち方になってしまっていた子どもも、人差し指の位置がずれないために、持ち方が崩れることがなく、正しい持ち方が維持された。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;"> <p>鉛筆の持ち方 (グリップなし)</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>鉛筆の持ち方 (グリップあり)</p>  </div> </div> <p>ペグボードやくるくるボード、プリントを使った運筆課題 (knock knock 教材など) で練習を行うことによって、鉛筆を保持しコントロールするための、手や指の動きの発達を促すことによって、バインダークリップから一般的なペンシルグリップ、その後ペンシルグリップなしへと移行が可能であった。</p>

<p><子どもの様子></p>	<p>○穴に鉛筆を通して使うものより鉛筆に付けたり外したりが簡単、という声があった。</p> <p>○一般的なペンシルグリップより、指の位置が固定されるため、麻痺がある子どもや不器用さが顕著である子どもではバインダークリップを使ったほうが握りやすいという声が多かった。</p> <p>○指や手のコントロールがさほど悪くない子どもでは、一般的なペンシルグリップや補助具なしがよいという意見も聞かれた。</p>
<p>留意事項</p>	<p>子どもの中にはすぐに指が痛くなる、と訴えて使用したがらない子どもも存在した。</p>
<p>評価</p>	<p>クリップを使用することで正しい持ち方に慣れ、クリップをつけなくても正しい持ち方で書くことができるようになる子どもが多く、有効なツールであると考えられた。とくに不器用さが顕著である子どもには適していると思われる。</p>
<p>サポート・ツールの改善点</p>	<p>子どもの手の大きさによって調整が難しい。</p> <p>金具でできているため、長時間使用すると指が痛くなることがあり、柔らかい素材でカバーするなどの工夫が必要である。</p>



サポートツール実証データ

実証研究実施者	丹葉 寛之
区分 1	その他の教科
区分 2	その他
領域	連絡帳を書く
困難	連絡帳は升目がなく、行だけのため、文字の大きさや配分が上手く出来ず重なり合い、読みにくくなる。
サポートツール	魔法の赤い線
学年	小学2年生
試用期間	2011年 4月 1回の指導中。
使用場所	通常学級の教室
使用上の注意、条件	連絡帳に赤線を2本引くのみ
使用状況 <授業の構成等>	<p>鉛筆を持って文字を書く時に力のコントロール、大きさの調整の難しさがみられた。また、空間関係の理解にも問題が見られたため、連絡帳1行の中に、上手く文字を収めることの難しさが見られていた。学校での連絡帳を書く際の決まり事として、持ってくるもの(も)、宿題(しゅ)、手紙(て)と書き、その下に、必要なことを記入する方法をとっていたが、文字が重なり合い読みにくさが見られていた。</p> <p>手立てとして、文字が重ならないように記入出来る方法を考えた。連絡帳の日にち欄の下に赤線を2本引き、(も) (しゅ) (て) を1行ずつ記載し、2本目の赤線の下より、内容を記載するように意識づけた。</p> <p>2本目の赤線から書くことで、結果的に1文字分をあけて次の記載を始めることになるので、文字の重なることが減少する。</p> <p>指導する際、連絡帳を用いて、具体的に指示しながら板書する練習を行った。結果、1回の作業療法場面の中で指示内容を理解し、遂行することで、他者が見ても読みやすい書き方となった。学校場面で継続して取り組んでおり、以前の連絡帳と比較しても読みやすい状態が続いている。</p>
	
	
<子どもの様子>	連絡帳が見やすくなった。書きやすいとの感想が聞かれた。

留意事項	
評価	赤線を2本引き、区切りをつけるだけでこれだけ見やすくなるのですね、という感想が聞かれた。
サポートツールの改善点	
サポート・ツールの概要	 <p>The image shows a photograph of a piece of lined paper with handwritten Japanese text. At the top, there are two horizontal red lines. Below these lines, the text is organized into columns. On the left, the characters 'たみし' (Tamishi) are written vertically. In the center, 'おん' (On) is written vertically. To the right of 'おん', the characters 'けいさん' (Keisan) and 'どおり' (Douri) are written vertically. At the top right, the date '12月' (December) is written. The paper is otherwise blank with light blue horizontal lines.</p>

サポートツール実証データ

実証研究実施者	村井敏宏				
区分 1	その他				
区分 2	英語				
領域	単語の読み				
困難	英単語が読めない				
サポートツール	フォニックス絵単語カード				
学年	小6				
試用期間	10ヶ月間 1回/週 10分間				
使用場所	通級指導教室				
使用上の注意、条件	3名のグループ指導				
使用状況 ＜授業の構成等＞	<ul style="list-style-type: none"> ・以下のステップでフォニックスのルールを教えた後、絵単語カードで読みの練習をする。(読みが分かると意味が分かる単語を選択した) <li style="padding-left: 20px;">①子音の読み方 ②母音の読み方 ③サイレントe ④礼儀正しい母音 ・前回の復習の時には、絵を隠して綴りだけで読む練習をする。 ・一通りステップを終えた後に、プリントで読みと意味の確認をする。 				
＜子どもの様子＞	<ul style="list-style-type: none"> ・始めの頃は、綴りから音を思い出す事ができず、読み方のヒントを出すことが多かったが、回数を重ねると、自分で読める単語が増えた。 ・読めるとほぼ意味が分かるため、意欲的に取り組んでいた。 ・3名のグループで行ったため、自分で読めなくても他の子が読むのを聞いて分かる事ができた。 				
留意事項					
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・絵を隠して、綴りだけで7割程度の単語が読めるようになった。 ・子どもの感想「英語は難しいと思っていたが、だんだん簡単になってきた。」 「読めると英語がおもしろくなってきた。」 				
サポート・ツールの概要	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center; padding: 5px;">フォニックス</th> <th style="text-align: center; padding: 5px;">サイレントe</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; padding: 10px;"> <p>p → プッ</p> <p>b → ブッ</p> <p>t → トウ</p> <p>d → ドウ</p> <p>k → クッ</p> <p>g → グッ</p> </td> <td style="text-align: center; padding: 10px;"> <p style="color: blue; text-decoration: underline;">アルファベットの読み方を変える</p> <p>a-e (tape) → a (ア → エイ)</p> <p>e-e (Pete) → e (エ → イー)</p> <p>i-e (time) → i (イ → アイ)</p> <p>o-e (rope) → o (オ → オウ)</p> <p>u-e (tube) → u (ア! → ユー)</p> </td> </tr> </tbody> </table>	フォニックス	サイレントe	<p>p → プッ</p> <p>b → ブッ</p> <p>t → トウ</p> <p>d → ドウ</p> <p>k → クッ</p> <p>g → グッ</p>	<p style="color: blue; text-decoration: underline;">アルファベットの読み方を変える</p> <p>a-e (tape) → a (ア → エイ)</p> <p>e-e (Pete) → e (エ → イー)</p> <p>i-e (time) → i (イ → アイ)</p> <p>o-e (rope) → o (オ → オウ)</p> <p>u-e (tube) → u (ア! → ユー)</p>
フォニックス	サイレントe				
<p>p → プッ</p> <p>b → ブッ</p> <p>t → トウ</p> <p>d → ドウ</p> <p>k → クッ</p> <p>g → グッ</p>	<p style="color: blue; text-decoration: underline;">アルファベットの読み方を変える</p> <p>a-e (tape) → a (ア → エイ)</p> <p>e-e (Pete) → e (エ → イー)</p> <p>i-e (time) → i (イ → アイ)</p> <p>o-e (rope) → o (オ → オウ)</p> <p>u-e (tube) → u (ア! → ユー)</p>				

礼儀正しい母音

前の母音だけ読む(アルファベット読み)

-ea (tea) → ~~te~~x (イー)

-ee (tree) → ~~tre~~x (イー)

-ai (rain) → ~~rai~~n (エイ)

-ay (day) → ~~da~~y (エイ)

-ow (snow) → ~~sno~~w (オウ)

-oa (boat) → ~~bo~~t (オウ)

a-e



cake

a-e



tape

a-e



gate

i-e



time

i-e



bike

i-e



line

サポートツール実証データ

実証研究実施者	辻 薫
区分 1	運動と姿勢
区分 2	姿勢
領域	姿勢保持
困難	床での学習姿勢が傾き側彎傾向が強い。
サポートツール	ハートリーフクッション
学年	小学校6年 男子
試用期間	2011年8月～2011年12月 家庭ではほぼ毎日
使用場所	家庭
使用上の注意、条件	説明書には書かれていないが、家庭の椅子や床、屋外のレストランの椅子など、持ちは運んで、いろいろな場面で使用が可能である。床で使用する場合は椅子のように紐で固定することができないので、クッションカバーの固定だけで位置がずれる場合は、クッションカバーの下に滑り止めシートを敷くと、さらにずれにくい。
使用状況 <授業の構成等 >	<p>小学校4年の頃より学校医より側彎を指摘され、学校ではハートリーフクッションを使用し、ストレッチ体操とも併用し側彎は改善された。</p> <p>小学校6年生になり、受験のために家庭での学習時間が増えた。家庭では、床に座り、こたつ台を学習時に使用していた。ふたたび背骨がゆがんだように見えたので整形外科に受診し、側彎が悪化したことを指摘された。家庭学習時の姿勢への対処方法について、作業療法士に相談があったため、ハートリーフクッションを床で使用する方法を考え、説明した。本人には、クッションの使用前後での姿勢の違いを写真で確認してもらい、クッションを自分から使うように伝えた。その後は家庭学習の場面で使用を継続した。</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div> <p style="text-align: center;">クッションなしの床座位 クッションを使用した床座位</p>
<子どもの様子 >	床での座り方が、いつもと違う座り方なので、戸惑う様子だった。そのためデジタルカメラで、普通の座り方を後方から写真で撮り、本人に見せ、使用前後を比べてもらい、姿勢の崩れた姿とクッションを使用すると姿勢が変化している様子に気づけるようにした。本人から「背中がまがってるわ」「クッションに座るとまっすぐや」「これ使って家で勉強する！」と、自分のからだの変化に気づくことができていた。
留意事項	使用にあたっては、子どもの体型や座位姿勢、活動の場面に応じて調整が必要な場合があるため、作業療法士など専門家に相談することが望ましい。
評価	保護者からは、一度改善していた側彎が悪化して心配だったが、クッションにより家庭での学習場面でも、床での姿勢保持がしやすくなったので安心したとのことであった。

サポートツールの 改善点	
サポート・ツール の概要	 <p data-bbox="387 795 639 831">価格:9,975 円(税込)</p>

サポートツール実証データ

実証研究実施者	辻 薫
区分 1	運動と姿勢
区分 2	姿勢
領域	姿勢保持
困難	座位で腰痛が起こり、疲れやすい
サポートツール	ハートリーフクッション
学年	就労事業所で勤務する成年男性
試用期間	平成 22 年 1 月から現在まで
使用場所	職場事務所
使用上の注意、条件	ダンボール製の椅子上に置いて使用(ダンボール会社の自社製品である椅子)
使用状況	<p>勤務時間:朝 9 時から 17 時。(1 時間の昼休み) 業務内容は、パソコン入力編集作業が中心。 ダンボール製のツール(背もたれなし、正方形の座面のみ)に座って作業をしていたが、猫背になりやすく、腰痛と肩こりに悩んでいた。 周囲のスタッフからも姿勢のくずれをよく指摘されていた。 ハートリーフクッションをダンボール製ツールの上ののせて使用した。ニッタ製座圧測定システムを用いて、パソコン入力作業時のクッション使用の有無により座圧の変化も比較した。 クッションを使用しないと、最大座圧位置が後方にずれ仙骨部位になっている。そのため骨盤が後傾しやすく猫背になりやすいことがわかる。 クッションを使用した場合は、骨盤が中間位置にもどり、上体が伸びやすくなっている。最大座圧面積が広がり、前方に修正されている。</p> <p>クッションなしで PC入力作業時の 姿勢と座圧分泌状況→ 上体が丸くなりやすい 赤色の最大座圧位置が 後方にずれている</p>   <p>クッションを使用した PC入力作業時の 姿勢と座圧分泌状況→ 骨盤が起きて上体が伸 びやすい 最大座圧面積が広がり 前方へ移動している</p>  
留意事項	使用にあたっては、使用者の体型や座位姿勢に応じて、作業療法士など専門家にクッションの凸ブロックの位置決めを相談できると適合しやすい。

<p>評価 本人からの声</p>	<p>クッションにより、骨盤が起こしやすく背中が伸びるようになった。 腰の痛みと肩こりがなくなり、疲れにくくなった。 現在も継続して使用中である。カバーが黒だと重たいイメージなので、可愛いイメージのものがあってもよいと思う。</p>
<p>サポートツールの改善点</p>	<p>クッションの使い方やブロックのあわせ方など、動画で方法が確認できるとわかりやすいので、購入先のHPなどに動画をアップしていくことが望ましい。</p>
<p>サポート・ツールの概要</p>	

サポートツール実証データ

実証研究実施者	西口 あずさ
区分 1	算数
区分 2	図形
領域	作図
困難	コンパスがうまく使えない
サポートツール	ロックコンパス(角度固定ねじ付き)
学年	小学校3年生
試用期間	教育相談で練習後、コンパスの単元学習の間に継続使用。
使用場所	通級指導教室
使用上の注意、条件	
使用状況 <授業の構成等>	<p>算数のコンパスを使った学習場面で用いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・角度をネジで固定できる「ロックコンパス」を使い、安定してコンパスで円を描く手の使い方を練習した。 ・対象児は、指先でコンパスのつまみを持って回すことはできたが、針が持ち上がっていた。また針が紙から抜けないように意識させても、手首の動きの切り替えができず、鉛筆の先が浮き上がってしまっていた。 <p>また、うまく片手でコンパスを扱えない経験から、針と鉛筆を両手で持って回していた。そのため、円を描こうとしても、かえって角度が開いてしまい、円の描き始めと描き終わりがつながらず、円が閉じていなかった。</p>
<子どもの様子>	<p>はじめは両手を使い、針のついた側を固定しながら反対の手で回していた。</p> <p>閉じた円がうまく描けたことで、両手でコンパスをさわり、脚が広がらないことを確かめながら「これやったらずれへんわ」と安心した様子になった。</p> <p>徐々に片手で描くことに挑戦し、何度かくり返すうちに、片手で針を軸にして手関節・手指を動かすコツがわかるようになった。</p> <p>そのため、一般のコンパスを使っても円を描けるようになった。</p>
留意事項	角度を固定するネジの止め外しが、子どもだけでは難しい場合がある。
評価	<p>40分程度の指導で、片手で描こうとするようになったことに保護者・担任の先生とも驚かれ、後日、ご家庭と通級指導教室でも、同じコンパスを購入された。</p> <p>本人からは「両手じゃないと無理と思っていた」と言う言葉が聞かれた。</p> <p>単元終了時には角度固定用のネジを使わずに円が描けるようになった報告があった。</p>
サポートツールの改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的なコンパスより高価 630 円(税込み)


サポート・ツールの概要



開いた足を
固定する
ロック機能付

サポートツール実証データ

実証研究実施者	西口 あずさ
区分 1	対人関係・社会性
区分 2	対人関係
領域	葛藤の処理
困難	勝ち負けにこだわる
サポートツール	ことばのカードゲーム「もじぴったん」
学年	小学校3年生
試用期間	教育相談における個別支援場面
使用場所	通級指導教室
使用上の注意、条件	<ul style="list-style-type: none"> ・対象年齢は3歳以上。 ・平仮名の読み・書き習得ができていてある程度の語彙量があることが望ましい。 ・2人～5人のメンバーが必要。
使用状況 ＜授業の構成等＞	<p>[準備]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙盤上の所定の位置にも2枚のカードを置き、各自は8枚の文字カード持つ。 ・2～5人で遊ぶ。 <p>[遊び方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボード上にあるカードと手持ちのカードを組み合わせて、言葉になるようにボードの上に並べていく。 ・カードを置く条件は、日本語表記の順序性に従い、横は左から右へ読めるように、縦は上から下へ読めるように並べる。 ・順番に行い、すべての手持ちカードを最初に使いきった人が勝ち。 ・手持ちのカードで何も言葉を作れなかったら、山札からカードを1枚引いて1回休み。 ・存在しない言葉や参加者が知らない言葉は認められない。
＜子どもの様子＞	<p>「カードが早く無くなった人が勝ち」というルールだが、できた言葉を楽しむことに興味を持つことで、勝ち負けをあまり意識しない様子があり「負けたけど、おもしろかった。」という声が聞かれた。</p> <p>自分が作りたい言葉があっても作れないとイライラする様子もあったが、カードを減らすためには仕方がないと、違う言葉を考えて作ることができていた。</p> <p>また最後に残った人のカード使って一緒に言葉を考えるなど協力しあう場面も見られた。</p>
留意事項	人数が多いと、場合によっては時間がかかり、待ち時間が長くなる。
評価	<p>普段は、ゲームや遊びで勝つことにこだわり、ルールを変えてでも勝とうとする。不器用さもあり、スピード勝負になると勝てないことが多く拗ねてしまう。</p> <p>このゲームでは勝ち負けにこだわらず言葉作りを楽しむことができた。</p> <p>後日、家庭や通級指導教室でも購入、休み時間や学習の合間に友達とも楽しめるようになった。</p>

<p>サポートツールの改善点</p>	<p>紙製のため、繰り返し使うと破損する場合がある。</p>
<p>サポートツールの概要</p>	<p>1,050 円(税込み)</p>   




サポートツール実証データ


実証研究実施者	西口 あずさ
区分 1	その他の教科
区分 2	体育
領域	手足の協調運動
困難	縄跳びがとべない
サポートツール	ビニールテープ付きなわとび
学年	小学校1年生
試用期間	作業療法士による教育相談後、体育の授業で使用継続中。
使用場所	特別支援学級
使用上の注意、条件	縄跳びが体育の課題となっており、何度か経験があること。
使用状況 ＜授業の構成等＞	<p>体育の授業で「縄跳び」が始まったが、就学する前から跳べなかったため、嫌がって練習しない様子であった。</p> <p>一生懸命に腕全体で縄を回すが、縄がよれて回転のスピードも遅い。そのため足に引っ掛かりやすく跳び越せないでいた。</p> <p>また、これまで縄が足にあたって痛かった経験から、縄が足にあたることを非常に警戒していた。</p> <p>縄の中央付近に子どもの肩幅程度の幅でビニールテープを巻き、縄をよれないようにした。これによって、縄がよれなくなり飛び越えやすくなったことと、縄を回す時の回転力を高めることができた。</p> <p>また、色つきテープの部分を見ることで、縄とタイミングを合わせて跳び越しやすくなった。</p>
＜子どもの様子＞	<ul style="list-style-type: none"> ・縄を回すスピードが遅くても縄がよれずに前に回ってくるため安心して跳べた。 ・また「テープを見て跳ぶ」という約束で、縄と跳ぶタイミングがとれるようになった。 ・本人も「とびやすい」と続けて練習し始めた。
留意事項	使っているうちにテープの粘着力がなくなりはがれるため、巻きなおすことが必要。
評価	<p>後日、保護者からは家庭でも練習するようになったと喜ばれた。</p> <p>ビニールテープがめくれてきて、透明なセロハンテープに巻き替えると、目立たないので子どもが喜んだなどの声が聞かれた。</p>
サポートツールの改善点	ビニールテープを巻く代わりに、透明なホースやチューブを縄に通すのもよい。

サポート・ツールの概要






サポートツール実証データ

実証研究実施者	丹葉 寛之
区分 1	算数
区分 2	図形
領域	作図
困難	ものさしを使って、まっすぐに線を引くことが難しい。
サポートツール	滑り止め付きものさし
学年	小学2年生
試用期間	2011年 7月 1回の指導中。
使用場所	通常学級の教室
使用上の注意、条件	連絡帳に赤線を2本引くのみ
使用状況 <授業の構成等>	<p>算数で長さの勉強が始まるとものさしの使用が始まります。点線の上をなぞること、線の上に合わせること、点と点を結ぶことの難しさがあったため、ものさしの工夫を行いました。</p> <p>作成方法は、ものさしの裏に1cm×2cm程度に切った滑り止めシートを両面テープで貼ります。貼る場所はものさしの両端に2カ所です。</p> <p>両端に貼ることで線を引くときのズレはなくなりますが、それでもずれる場合は両端と中央の3カ所に張るようにします。</p> <p>ものさしの表面から滑り止めシートが見えると嫌がる子どもがいるため、ものさしに書かれているキャラクターの裏などに貼れると良いです。</p> <p>このような理由から、ものさしの全面に貼ると滑り止めが表面から見えるので、まずは2カ所から始め、使用状況を見ながら中央にも貼るようにすれば良いです。</p>
	<p>使用前 </p> <p>使用後 </p> <p>使用している様子 </p>

<p><子どもの様子></p>	<p>書きやすくなったと言い、うれしそうな顔で何度も繰り返し線を引く様子が見られた</p>
<p>留意事項</p>	
<p>評価</p>	<p>線を引きながら反対手で固定を続けることが難しかったが、ものさしに滑り止めをつけることで、線を引く際、ものさしがずれることがなくなり、まっすぐに線を引けるようになりました。</p>
<p>サポートツールの改善点</p>	
<p>サポート・ツールの概要</p>	

サポートツール実証データ

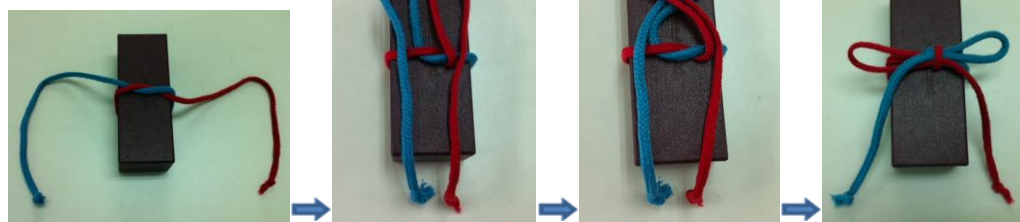
実証研究実施者	辻 薫
区分 1	国語
区分 2	書く
領域	鉛筆の使い方など
困難	鉛筆を正しく持てない
サポートツール	プニユグリップ
学年	幼稚園 年中組
試用期間	2011年4月～2011年7月 家庭ではほぼ毎日
使用場所	家庭
使用上の注意、条件	鉛筆に差し込む向きがあるので、矢印の方向を確かめて差し込む方法を子どもに伝える。 感触が気持ちよく、物を噛む癖のある子には使わない。口の中にはいると飲み込める大きさなので、注意する。
使用状況 <授業の構成等>	就学準備として、鉛筆の使い方について相談があった。迷路や点結びなど、書字につながる練習をする場面で、鉛筆の持ち方を観察した。鉛筆を親指と人差し指の横で挟み込み、力が入った持ち方であった。これから、就学に向けて、親指、人差し指、中指の3本指でうまく持てるようにするための導入段階で使用を開始した。 子どもが取り組みやすいように筆箱にグリップをつけた鉛筆や色鉛筆を入れておく。子どもが塗り絵や練習帳で遊ぶときに、いつでも自分からすすんで使用できるように準備しておく。プニユグリップのくぼみに親指、人差し指、中指をあてることで、バランスの良い持ち方になるため、姿勢もよくなり頭が上がるので、線の方向や切り替えが見やすくなる。
<子どもの様子>	<p>グリップをつけていないときは、手元が見えにくいので、覗き込むようにして姿勢を曲げて書いていた。横から手元を見るので線の方向も間違えやすく、行き過ぎたり枠をはみ出すことが多かった。グリップをつけると持ち方が安定し、手元が見やすくなったことで書く姿勢が良くなった。また、上から見るので視野も広がり、迷路や線引きの練習で枠をはみ出すことが少なくなった。</p> <p>「通常の持ち方と姿勢」 「プニユグリップ使用時」 「はずしても持ち方が持続」</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>

留意事項	
評価	家庭で、色塗りやお絵かきの時に使用している。持ち方が定着するまでは、家庭を中心に使用していこうと考えている。
サポートツールの改善点	
サポート・ツールの概要	<p>グリップの種類は右手用、左手用がある。また、プリン、チョコレート、ソーダなどの香りつきも販売されている。</p>     <p>価格：105 円(税込み)</p>

サポートツール実証データ

実証研究実施者	立山清美・加藤世里子
区分 1	日常生活
区分 2	更衣
領域	ひも結び
困難	ひもを結ぶ時どこに紐を通すかわからない。 ひも結びの手順がわからない。
サポートツール	左右の紐の色を変える
学年	小学4年生
試用期間	約2か月間
使用場所	自宅で練習し、学校でも使用
使用上の注意、条件	
使用状況 <授業の構成等>	<p>①机上で直方体の筆箱などに紐を結ぶ練習から開始した。見本用で保護者が紐を結んで見せて、子どもがまねる。</p> <p>②左右の色をかえる+結び方を左右ともリング状にして対称的に結ぶ方法を取り入れた。</p> <p>③机上でできるようになったら、足に紐を取りつけ結んだ。</p> <p>④靴の紐を2色使いにして実践した。</p> <p>※足や実際の靴で練習する場合は立位や座位のバランスが必要となる。うまくバランスが取れない子は、床に座って練習すると手が足に届きにくいので、低い椅子に座って練習すると成功しやすい。また、立位で靴紐を結ぶ場合も、立位バランスがとりやすいように壁にもたれたり、高めの椅子に腰掛けたり、後ろから少し支えてもらったりして、練習すると良い。</p>
<子どもの様子>	2色使いの紐がついた靴が、紐も結びやすく、オシャレで気に入ったそうです。
留意事項	
評価	これまで、何度か親子でトライしてもうまくいかなかったが、左右の色をかえることで、すぐにできた。
サポートツールの改善点	

サポート・ツールの概要



左右ともリング状にして対称的に結ぶと通す場所や手順がわかりやすいです。
色が異なる紐が2本あれば、よい。
価格:200 円くらい

サポートツール実証データ

実証研究実施者	笹廣 みさき
区分 1	算数
区分 2	数と計算
領域	数と数字
困難	数を記憶しにくい
サポートツール	新聞ボール
学年	全学年
使用期間	いつでも
使用場所	教室
使用上の注意、条件	きつく巻いてあると、かたいのであると痛い
使用状況 <授業の構成等>	<p>新聞紙を丸めて、いろいろなビニールテープで巻いて新聞ボールを作る。数の学習や玉入れ、色分けなど多様に使用できる。</p> <p>*数の学習・・・例「赤4こと黒2こ合わせていくつ」</p> <p>*記憶・・・例「赤2つと黒3こ取ってくる」と記憶して取る。</p> <p>*玉入れ・・・色ごとに得点を変えたり、自分の色を決めたりする場合に見分けやすい。</p> <p>*聞いて箱に入れる・・・例「赤」と言うと赤ボールを持っている人が箱に入れる。</p>
<子どもの様子>	<p>新聞紙を丸める、ビニールテープで丸くなるように巻いていく作業はうまく巻く必要があるので一生懸命取り組める。</p> <p>いろいろな色や大きさに分けて自分達で遊び方を工夫して考えてくれる。</p>
留意事項	<p>使い方を話しあう必要がある。(それも大事な話し合いとしている)</p> <p>人に向かって投げない・取り合いしないなど。</p>
評価	<p>新聞ボールを使って20までの数の加減の学習に用いることができた。また同じ数を増やすかけ算や分ける作業でわり算の学習も視覚的な手掛かりがあるのでわかりやすかった。</p> <p>聞いて取ってくる学習は記憶力を高めるために有効であった。</p> <p>新聞紙を丸める、ビニールテープで丸くなるように巻いていく作業はうまく巻く必要があるので一生懸命取り組めた。</p>
サポートツールの改善点	

サポートツール実証データ

実証研究実施者	笹廣 みさき
区分 1	算数
区分 2	数と計算
領域	足し算・引き算
困難	数の計算が理解しにくい
サポートツール	新聞ボール
学年	全学年
使用期間	いつでも
使用場所	教室
使用上の注意、条件	きつく巻いてあると、かたいのであたると痛い
使用状況 ＜授業の構成等＞	<p>新聞紙を丸めて、いろいろなビニールテープで巻いて新聞ボールを作る。数の学習や玉入れ、色分けなど多様に使用できる。</p> <p>*数の学習・・・例「赤4こと黒2こ合わせていくつ」</p> <p>*記憶・・・例「赤2つと黒3こ取ってくる」と記憶して取る。</p> <p>*玉入れ・・・色ごとに得点を変えたり、自分の色を決めたりする場合には見分けやすい。</p> <p>*聞いて箱に入れる・・・例「赤」と言うと赤ボールを持っている人が箱に入れる。</p>
＜子どもの様子＞	<p>新聞紙を丸める、ビニールテープで丸くなるように巻いていく作業はうまく巻く必要があるので一生懸命取り組める。</p> <p>いろいろな色や大きさに分けて自分達で遊び方を工夫して考えてくれる。</p>
留意事項	<p>使い方を話しあう必要がある。(それも大事な話し合いとしている)</p> <p>人に向かって投げない・取り合いしないなど。</p>
評価	<p>新聞ボールを使って20までの数の加減の学習に用いることができた。また同じ数を増やすかけ算や分ける作業でわり算の学習も視覚的な手掛かりがあるのでわかりやすかった。</p> <p>聞いて取ってくる学習は記憶力を高めるために有効であった。</p> <p>新聞紙を丸める、ビニールテープで丸くなるように巻いていく作業はうまく巻く必要があるので一生懸命取り組めた。</p>
サポートツールの改善点	

サポートツール実証データ

実証研究実施者	菅廣 みさき
区分 1	対人関係・社会性
区分 2	社会性
領域	スキル
困難	ゲームのルールが理解しにくい
サポートツール	玉入れゲーム
学年	全学年
使用期間	いつでも
使用場所	教室
使用上の注意、条件	
使用状況 <授業の構成等>	<p>*玉入れ・・・底の浅い空き箱9個を縦3列横3列に並べる。 ビンゴ形式で玉入れをする。 縦横1列に並べてたくさんビンゴに並んだら勝ち ボールは、新聞紙を丸めて、いろいろなビニールテープで巻いて新聞ボールを作る。 同じところにはいっても無駄になる。 どこを狙って入れるか考える必要がある。</p>
<子どもの様子>	<p>ボールを作るところから始めるので、意欲的にとり組める。 ビンゴになるように考えて投げる。 強く投げても箱から飛び出るので投げ方を工夫する必要がある。 チーム戦にすると励まし合える。 どこに入れればいいのか支援してくれる。</p>
留意事項	<p>ゲームなので、負けても怒らないなど約束をしておく 待つ時の態度や約束も得点になることにする。</p>
評価	<p>ボールを作るところから始めたので、意欲的にとり組めた。 強く投げても箱から飛び出るので投げ方を工夫する必要があり、慎重に手先をコントロールしていた。 ビンゴゲームにしたので、ゲームのルールを理解できた。 チーム戦にすると励まし合え、どこに入れればいいのか応援できた。</p>
サポートツールの改善点	